

解答

問一 (半) 信 (半) 疑

問二 ①オ ②ア

問三 谷間の崖が向かい合ったところで、片一方の崖の上から向こうの崖に向かって声を出すと、それがこだまになってこちらへ帰ってくるのがくり返されて音が消えないという話を、科学の雑誌に書いてあったことを根拠に信じること。

問四 太郎左衛門が象牙でできた珍しい支那の琴だと言って持ってきたものが、実はどこにでもある火皿という煙草をのむ人用の道具だとわかり、太郎左衛門のくだらないうそにだまされた自分も許せなかったから。

問五 五月の晴れた日曜の午後で、みんなが非常に退屈でうんざりしていたため、何かやりたくてたまらなかつたうえに、太郎左衛門の今回の誘いは自分たちも想像できることだったので嘘に思えなかったから。

問六 約十二三キロも歩いて遠くに来てしまい、太陽が沈み、自分達の体もくたくたに疲れて一歩も動けなくなつていて、これからどうやって帰ればいいのか案も頭の働きのぶって浮かばず、不安で恐ろしくなっていること。

問七 ふだんは全く理解できず訳の分からない人間だと思っていた太郎左衛門でも、生死のかかったぎりぎりの状況下では、誰もが助かろうという気持ちになって、連帯感が生まれるということ。

問八 磁石 製造 反射 ふんべつ 拾〔った〕 有頂天